



編集発行
日本共産党鶴岡市議団
鶴岡市美原町16-5
電話22-3313

高橋 ちづ子
智子友
いぶち連絡所
国会議員連絡所
鶴岡市美原町16-5
☎ 22-3313
FAX24-4096

無料生活相談所
関 徹
長者町11-26
24-2414
加藤 一
宝徳 仲田56
64-3941
菅井 巖
中 楯 9 6
33-0534

坂本 昌栄
稲生2-33-47
24-5993
山田 守
宝田1-9-1-31
23-6548
長谷川 剛
日枝坂本43-10
41-9148

新朝日庁舎にデジタル化推進拠点

第1回SDGs未来都市デジタル化戦略有識者会議

第1回鶴岡市SDGs未来都市デジタル化戦略有識者会議が3月29日開かれました。

過疎地域対策にデジタル技術を活用

デジタル化の推進方策として、

①新たな朝日庁舎を整備し、鶴岡市全体のデジタル化推進部門を担う拠点を指す、
過疎地域の課題・対策にデジタル技術を活用し、先導的に取り組む拠点を、
課題として、コミュニティの維持・強化や、生活交通の確保、地域医療の確保など6点をあげました。

推進方策②では、高齢者の課題解決に向け、便利さを実感できるDXの推進例として、買い物支援、遠隔診療、交通不便の支援、配布物、安否確認を支援する「デジタル町内会」などをあげました。

DXとは、デジタルトランスフォーメーションの略で、ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるという概念です。

推進方策③では、地域医療・健康の課題解決に向けた、総合的なデジタル化の方向性として、スマホアプリを活用した健康管理、保健指導、過疎地域にお

けるオンライン診療などが紹介されました。

個人情報提供に不安 市民への説明責任

デジタル化戦略有識者会議は、外部有識者として高等教育関係者、シンクタンク・コンサルティング企業等関係者、IT企業等関係者、モバイル・通信企業等関係者、地域活性化・自治会等関係者等から構成されています。

来年3月末まで計5回の有識者会議・幹事会を開催し、「鶴岡市デジタル化戦略」を策定する予定が示されました。

長谷川剛議員、山田守議員



長谷川剛議員



山田守議員

した。
行政のデジタル化は管政権が強引に進めていますが、多くの国民は国や企業に個人情報を提供することに不安を感じています。
市のデジタル化戦略は、安心や安全性を求める市民に、透明性と説明責任が強く求められます。

長谷川剛議員、山田守議員が傍聴参加しました。

(図・第1回会議資料から)

林」は402林班(1万2289㎡・59%)、「今後判断が必要な森林」は304林班(8632㎡・41%)との案が示されました。
委員からは「割合は適当だと考える」「数値化はわかりやすい」との声や、併せて林業体制・林道整備を進めてほしいとの要望も出されました。

市の公共施設への木質バイオマス燃料ボイラー等の検討経過では、チップボイラー導入について具体的な資料が示されました。

低コストで燃料化でき、山土場でのチップ製造が可能で、中・大規模施設に適しているとする一方で、課題として機器等の導入初期がコスト高で、施設でのチップ保管の敷地確保や、良質なチップの安定供給が挙げられました。

朝日庁舎や、今後更新予定の高齢者福祉施設、市民プール等にモデル的に導入を検討したいとし、村上建設部長は、「地元の木を使う地域好循環という意味からも、比較検討したうえで積極的に進めたい」としました。
菅井巖議員が傍聴しました。



菅井巖議員

木質バイオマスボイラーの公共施設導入等を協議

令和2年度第2回林業振興協議会

令和2年度第2回鶴岡市林業振興協議会が3月23日開かれました。

令和3年度の森林環境譲与税の活用や、木質バイオマスボイラーの公共施設導入などについて協議が行われました。

森林譲与税の活用では、委員から「内容がわかりづらい」との指摘があり、市ではPR

版も含めて作成してくださいとしました。
森林ゾーニング

森林ゾーニング(区分け)では、平均傾斜や林道からの距離、樹齢など、森林簿等からのデータを得点化して判定するとしました。
林班単位のゾーニング結果について、市全体の「経営に適した森

鶴岡市のデジタル化の推進方策①



朝日庁舎改築

朝日庁舎の改築について

- ・市全体のデジタル化推進部門を備える。
- ・市の過疎対策を先導的に取り組む部門を備える。
- ・令和6年度供用開始を目指し整備を予定している。



◆ 過疎地域の課題・対策にデジタル技術を積極的に活用し先導的に取り組む拠点

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 コミュニティの維持・強化 | 4 産業の振興、労働力不足解消 |
| 2 生活交通の確保 | 5 高齢者等の保健・福祉の向上 |
| 3 地域医療の確保 | 6 生活環境の維持・整備 |

新朝日庁舎の整備

◆ 市全体のデジタル化推進部門を担う拠点

発達障がい児受け入れ補助金増額

令和2年度第2回市児童福祉審議会

令和2年度第2回鶴岡市児童福祉審議会（子ども・子育て会議）が3月15日開かれまし

た。令和3年度の児童福祉施策では、発達障がい児受け入れに対し市独自として補助金が1人11万3000円、1施設124万5千円に増額されること、

令和3年度の児童福祉施策に合わせ合築する放課後児童クラブの整備では、令和3年度に実施設計を予定し、放課後児童クラブのない上郷小・豊浦小・西郷小の3小学校区では長期休み中、見守りサポート事業が行われる予定です。（湯野浜小は検討中）

児童虐待対応で家庭相談システム

児童虐待への対応として令和3年12月から児童家庭相談システムをつくり、4年度までに家庭総合拠点の整備を図るとしています。

0から2歳児の保育料は、国では非課税世帯を無償化の対象としています。朝陽第五小学校の改

自に年収470万円まで拡大する予定であるとの説明がありました。

委員から「過密にならないよう施設の充実願う」など意見

委員から、「学童保育所も過密にならないよう、施設と働く環境整備の充実を願う。学童保育所のない地域でも、地域の人たちが学童保育所の立ち上げが出来るよう、支援員や補助金等の環境を整え、小さな学童保育所でも成り立つようにしてほしい」

「児童養護施設では現状、一時保護や家庭で生活出来ない地域の子どもの一時的預かり

の場合、部屋が不足している。

児童家庭支援センターでは、虐待に至る前の対応で、地域の方に出で行くことも可能であり、もっと活動したい」

コロナ禍における子どもの様子については、「家庭内不和や虐待も増加し、電話連絡し保護者へ支援を行ってきた」

「現場は毎日緊張の



坂本昌栄議員

日々で、行事等ピリピリしていたが、子どもたちは園でのびのび過ごしている。

感染対策として食事時やお昼寝の際も配慮している」等の現状が話されました。

坂本昌栄議員が傍聴しました。

学校と地域が協働・融合した部活動へ検討委設置

鶴岡市スポーツ推進審議会

鶴岡市スポーツ推進審議会が3月29日開かれました。

学校における部活動と地域の連携検討について、文科省が推進する「部活動の適正化」と「学校の働き方改革」を考慮した「学校と地域が協働・融合」した部活動の実現について、市の検討委員会を設置していく方針が示されました。

委員会は、①地域の実態に応じた学校と地域の協働・融合した部活動の在り方、②部活動数の適正化、③市の部活動等に関する基本方針について、検討するとしています。

今後の施設運営・事業計画では、コロナ禍の中でも市民の施設利用やサークル活動への要望は根強く、工夫をしながら開催を行っていききたい、などの意見が出されました。山田守議員が傍聴しました。

休日の部活動

今後の休日の部活動については、教員や部活動指導員、外部指導者などによる部活動等

から、地域指導者等によるスポ少、民間化クラブ、総合スポーツクラブ等の地域スポーツ関係者の関与を強め、11ある中学校区からモデル推進校を選定し、実践研究を進めたいとしています。

委員からは「受け皿が確保できない中での移行は課題があり、この仕組みは疑問」

「期待が大きく、地域総合クラブも困難」など、課題を指摘する声が出されました。

地域の中で作るスポ少などでは、経済的な理由で通いの格差があることや、地域指導者の専門性と担い手不足の実態などの指摘があり、「生徒にとって望ましい部活動の実現を目指す」としている点を大切にしたいという意見も出されました。

菅井巖議員と、坂本昌栄議員が傍聴しました。



鶴岡市中央公民館

コロナ対策、今後の施設運営・事業計画を協議

第2回中央公民館運営審議会

第2回鶴岡市中央公民館運営審議会が3月

15日開かれました。各事業の報告の後、

委員から、「荘銀タクトの場合は15分で大ホールの換気は可能だが、中央公民館の場合は施設の老朽化で短時間での換気が困難だ。

入場者数の関係でも非接触型の検温センサーの設置が必要」との指摘がありました。

プラネタリウム

また、人気のあるプラネタリウムでは、コロナ感染対策として78席を30席とし、開催回数を増やし、遮光カーテンをつけるなど密閉対策を行っていることが報告されました。

今後の施設運営・事業計画では、コロナ禍の中でも市民の施設利用やサークル活動への要望は根強く、工夫をしながら開催を行っていききたい、などの意見が出されました。山田守議員が傍聴しました。